令和2年度「需要喚起キャンペーン事業（Go To 商店街事業）」
に係る企画競争 審査概要

令和2年9月7日

令和2年度「需要喚起キャンペーン事業（Go To 商店街事業）」
に係る企画競争における第三者審査委員会

議事の経緯と概要

第三者審査委員会の開催経緯は次のとおりである。

- 第1回：令和2年6月30日（火） Web 会議
- 第2回：令和2年7月31日（金） Web 会議
- 第3回：令和2年8月17日（月） Web 会議
- 第4回：令和2年8月31日（月）～ 書面会議
- 第5回：令和2年9月 3日（木）～ 書面会議

また、各第三者審査委員会における議事概要は次ページ以下のとおり。

第1回 第三者審査委員会 議事概要

日 時：令和2年6月30日（火）13：30～14：00

場 所：各審査委員による

審査方法：Web 会議による審査

議事内容：

1. 第三者審査委員会に関する設置運営について

令和2年度「需要喚起キャンペーン事業（Go To 商店街事業）」に係る企画競争における第三者審査委員会に関する設置運営規則の再確認を行った。

当該規則に基づき、委員長を決定した。

2. 募集要領、審査項目、審査項目毎の配点基準等に関する審議

需要喚起キャンペーン事業（Go To 商店街事業）の事務局募集の進め方、募集要領、審査項目及び審査項目ごとの配点基準、今後のスケジュール等について中小企業庁等から説明があった。

審査委員からの所見は次のとおり。

（事務局募集の進め方について）

- ・ 審査基準や採択結果等の公表により、選定プロセスの透明性が確保されており、進め方に問題はない。

（募集要領について）

- ・ 事業実施スケジュールは、提案内容を踏まえ、国と事務局の認識にずれがないよう調整する必要がある。
- ・ 再度、緊急事態宣言が出された場合等、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえどのような対応をするか、事務局決定後、しっかりと議論するべきである。

（審査項目及び審査項目毎の配点基準について）

- ・ 審査項目、配点等に違和感はない。
- ・ 具体的な話は個別の提案を受けてから判断になると思うが、費用対効果の評価については、特にどのような観点から行うべきか。
→中小企業庁等から事務費が過度でないか、及びコストをかけずに如何にして良いパフォーマンスを発揮できるか等の観点から確認し、評価してほしいと説明があった。

以上について採決を行い、審査委員全員異議なしとして、中小企業庁等から説明のあった方法に従って、事務局募集の手続を進めていくことを決定した。

3. 企画提案書の審査・採択事業者の決定に関する審査方法について

第三者審査委員会における企画提案書の審査・採択事業者の決定に関する審査方法については、委員長一任とすることで他の審査委員の異議がなかったため、委員長一任となった。

以上

第2回 第三者審査委員会 議事概要

日 時：令和2年7月31日（金）17：00～19：30

場 所：各審査委員による

審査方法：Web 会議による審査

議事内容：

1. 第三者審査委員会に関する設置運営について

令和2年度「需要喚起キャンペーン事業（Go To 商店街事業）」に係る企画競争における第三者審査委員会に関する設置運営規則の改正、審査における一層の透明性確保の観点から、審査に関する公表項目を追加することを共有した。

2. 審査の進め方について

まず、審査の進め方に関する確認を行った。

第2回第三者審査委員会においては、あらかじめ審査委員へプレゼンテーションの実施を希望する申請者を聴取したところ、5者に対する希望があったため、それら申請者によるプレゼンテーションを実施し、その後、審査を行うことを確認した。

また、第2回第三者審査委員会終了後、審査委員による企画提案書に対する採点を行い、第3回第三者審査委員会において、その採点結果を踏まえて、議論することを確認した。

3. プレゼンテーションの実施

審査委員よりプレゼンテーション実施希望のあった申請者によるプレゼンテーション・質疑応答（計15分程度）を実施し、概要は次のとおり。

(プレゼンテーション①の概要)

申請者①から提案内容についての説明を聴取するとともに、質疑応答においては、審査委員より主に以下の点について確認等を行った。

- ・ 具体的に商店街等をどのようにして支援するのか。
- ・ 専門的支援に関して、数多く揃える専門家をどのようにハンドリングするのか。
- ・ 専門的支援のスケジュールや、イベント実施後のフォローについて、どのように考えているのか。 等

(プレゼンテーション②の概要)

申請者②から提案内容についての説明を聴取するとともに、質疑応答においては、審査委員より主に以下の点について確認等を行った。

- ・ 数多くの商店街等を支援できる実施体制を構築することが可能かどうか。
- ・ 広報費の計上は妥当かどうか。
- ・ 過去の実績を踏まえ、本事業を実施することが可能かどうか。
- ・ 専門的支援について、どのような支援を考えているのか。 等

(プレゼンテーション③の概要)

申請者③から提案内容についての説明を聴取するとともに、質疑応答においては、審査委員より主に以下の点について確認等を行った。

- ・ 数多くの商店街等を支援できる実施体制を構築することが可能かどうか。
- ・ 人件費の計上は妥当かどうか。
- ・ 事業実施体制は適切かどうか。 等

(プレゼンテーション④の概要)

申請者④から提案内容についての説明を聴取するとともに、質疑応答においては、審査委員より主に以下の点について確認等を行った。

- ・ 具体的に商店街等をどのようにして支援するのか。
- ・ 専門的支援に関して、現実的な支援内容となっているかどうか。
- ・ 広報の方法について、適切な方法かどうか。
- ・ 外注先の業務内容は何を想定しているか。 等

(プレゼンテーション⑤の概要)

申請者⑤から提案内容についての説明を聴取するとともに、質疑応答においては、審査委員より主に以下の点について確認等を行った。

- ・ 具体的に商店街等をどのようにして支援するのか。
- ・ 専門的支援について、どのような支援を考えているのか。 等

4. 審査

申請のあった全14者に関する審査を実施した。審査委員による主な発言は次のとおり。

(全般に関する発言)

- ・ 本事業は全国的なネットワークを有し、遂行できるだけの体制を構築する必要があるが、それを満たす申請者は限られている。

(Aグループに関する発言)

- ・ 本事業の趣旨を十分に理解しているとは言い難い。

(Bグループに関する発言)

- ・ 提案内容は評価できるが、事務の執行能力に疑問が残る。

(Cグループに関する発言)

- ・ 専門的支援の方法が非常にユニークであり、評価できる一方で、どれだけ機能するかは未知数であり、不安が残る。
- ・ 現実的な提案内容であり、評価できる。

(Dグループに関する発言)

- ・ 提案内容から、全国的に事業を遂行できるだけの体制を構築できるところが読み取れない。

(Eグループに関する発言)

- ・ インパクトのある広報は評価できる。
- ・ 地に足のついた支援を実施できるかどうか疑問が残る。

(Fグループに関する発言)

- ・ 提案内容から、全国的に事業を遂行できるだけの体制を構築できるところが読み取れず、事務の執行能力に疑問が残る。
- ・ 人件費が高く、経費計上の適切性に疑問が残る。

(Gグループに関する発言)

- ・ 本事業の趣旨を十分に理解しているとは言い難い。

(Hグループに関する発言)

- ・ 本事業の趣旨を十分に理解しているとは言い難い。

(Iグループに関する発言)

- ・ 本事業を遂行できるだけの体制を構築できるかどうか疑問が残る。

(Jグループに関する発言)

- ・ 本事業の趣旨を十分に理解しているとは言い難い。

(Kグループに関する発言)

- ・ 大きい事業の実績を有していることは、評価できる。
- ・ 提案内容は評価できるが、人件費が高く、経費計上の適切性に疑問が残る。
- ・ 事業実施体制が複雑であり、統制して事業実施できるか不安である。

(Lグループに関する発言)

- ・ 提案内容は評価できるが、事務の執行能力に疑問が残る。

(Mグループに関する発言)

- ・ 外注先との役割分担が明確かつ、外注費も抑えていることから自前スタッフの強さが見て取れる。
- ・ 現実的な提案内容であり、評価できる。

(Nグループに関する発言)

- ・ 現実的な提案内容であり、リスクマネジメントの観点から評価できる。
- ・ 支援方法の具体策に欠ける。

5. 今後のスケジュール・採点方法の再確認

(採点方法について)

審査表への記入方法等、採点方法について改めて確認した。

(第3回第三者審査委員会について)

日程、実施方法について、中小企業庁より後日連絡することとした。

以上

第3回 第三者審査委員会 議事概要

日 時：令和2年8月17日（月）15：00～16：00

場 所：各審査委員による

審査方法：Web 会議による審査

議事内容：

1. 審査委員による採点結果を踏まえた議論

まず、中小企業庁より、申請者に対して申請内容に関する事務的な確認を行った結果を事前に審査委員へ共有した件について、報告があった。

その後、審査委員による採点結果を確認し、各グループの提案内容に関して、順に議論を行った。グループ毎の審査委員による主な所見は次のとおり。

(Aグループに関する所見)

- ・ 本事業の趣旨に合致していない。
- ・ 今回の全国規模での事業の事務局機能を担うためのノウハウ、人材が備わっているとは認め難い。
- ・ 本事業を推進するための体制や実績が不足している。
- ・ 本事業の目的を十分に理解したものとはなっていない。

(Bグループに関する所見)

- ・ 商店街の実情に合わない点が見られる。
- ・ 商店街関連での業務実績はあるものの、体制整備などに不安がある。
- ・ 全国規模での事業を円滑に実施できるとは考えにくい。
- ・ 費用対効果と経費合理化の工夫がみられる。
- ・ 本事業のための体制構築能力、実績等が不足している。
- ・ 平均的に良くできている企画提案書であるが、知識・経験の点においてこれだけの事業をやり切れるか不安が残る。
- ・ 短期間で本事業を円滑に実施できる体制であるか不透明である。

(Cグループに関する所見)

- ・ 地域の実情にあわせられないのではないかという不安が残る。
- ・ 責任体制が明確である。
- ・ 専門的支援について、期待が持てる内容である。
- ・ 広報に関して、地方圏への情報浸透にやや不安がある。
- ・ 費用対効果が必ずしも高くない。

- ・ 企画内容が具体的に提示されている。
- ・ 専門的支援について、よく練られた企画提案書であると感じる。
- ・ 専門的支援について、考え方は高く評価できるが、現状のプランでは企画倒れになるのではないかという不安もある。

(Dグループに関する所見)

- ・ 企画提案書が全体に抽象的であり、事業実施体制などが具体的に伝わらない。
- ・ 全国にまたがる膨大な事務作業を適切に担えるかどうか、不安がある。
- ・ 商店街への細やかな気配り、コロナ禍による新常态への配慮が認められる。
- ・ 体制面について、やや不安が残る。
- ・ 費用対効果が必ずしも高くない。
- ・ 実施体制の構築や企画立案について評価しうる要素はあるが、本事業と類似した案件についての実績が不足している。
- ・ 平均的な企画提案書である。
- ・ 商店街についての知見や経験について不安がある。
- ・ 想定している事業実施期間に不安が残る。

(Eグループに関する所見)

- ・ 広告費用の妥当性に疑問が残る一方で、広報効果は絶大である。
- ・ 事務負担平準化の工夫がある。
- ・ 過去に商店街関連業務の実績の記載がなく、商店街の実態把握が十分とはいえない。
- ・ 地に足のついた全国各地でのサポート体制であるか、不安がある。
- ・ 費用対効果について、金額面で努力は認められる。
- ・ 企画内容に具体性がある。
- ・ 事業運営管理面での実績や運用設計にやや弱みがある。
- ・ 費用について、精緻な見積書であることは高く評価できる一方で、事務局運営費がやや高いと感じる。

(Fグループに関する所見)

- ・ 企画提案書が全体に抽象的で、具体的な内容が伝わらない。
- ・ 経費の積算も粗く、企画書としての完成度は低い。
- ・ 事務局機能の再委託先が、全国規模の業務を遂行できるか未知数である。
- ・ 費用対効果が必ずしも高くない。
- ・ 本事業の規模に見合った事業基盤、運用設計、実績等が不足している。
- ・ 事業内容の細部が詰められていない。

- ・ 商店街の実態をどの程度理解しているのか疑問が残る。

(Gグループに関する所見)

- ・ 本事業の趣旨を十分に理解した提案とは言い難い。
- ・ 記載内容が不十分であり、評価できない。
- ・ 提案内容に具体性が不足している。
- ・ 商店街の様々なニーズに沿って事業を実施する企画になっていない。
- ・ 実施体制や実績に関して具体的な記載はなく、事業の規模の大小にかかわらず業務を依頼するに足る情報がない。

(Hグループに関する所見)

- ・ 本事業の趣旨に合致していない。
- ・ 全国規模での事業実施に耐えうる組織としての体をなしていない。
- ・ 提案内容が、商店街の需要喚起を目的とするものとなっていない。
- ・ 経費・費目の記載がざっくりしすぎていて、具体的なものであるのか判断ができない。
- ・ 本企画は、商店街が持つ課題の解決、商店街や来街者のニーズに沿った企画とは言えず、本事業の目的を十分に理解したものとはなっていない。

(Iグループに関する所見)

- ・ 企画提案書全体が粗く、事業の詳細が読めない。
- ・ 人件費を含め、事業費算出の根拠が明確でない。
- ・ 企画提案書としての完成度が低い。
- ・ コロナ禍に対応した様々なアイデアを企画に盛り込んではいないものの、その担い手の確保、全国規模での事業運営のノウハウ、体制整備が十分ではない。
- ・ 本事業のための体制構築能力、実績等が不足している。
- ・ 提案内容が詰められていないように思われ、正直、何を考えているのかよくわからない。
- ・ 提案内容はユニークである。
- ・ この規模の事業を実施できるだけの体制が示されていない。

(Jグループに関する所見)

- ・ 本事業の趣旨が十分理解されていない提案である。
- ・ 記載内容があまりにも簡略化されており、内容不明である。
- ・ 本事業のための体制構築能力、実績等が不足している。

- ・ 本企画は、商店街が持つ課題の解決、商店街や来街者のニーズに沿った企画とは言えず、本事業の目的を十分に理解したものとはなっていない。

(Kグループに関する所見)

- ・ 弱小商店街を対象に想定するのは評価できる。
- ・ 人件費を含む費用の積算が粗い。
- ・ 広報 PR 方針について、地方圏では効果がある一方で、大都市圏では不十分と感じる。
- ・ 専門的支援のコンテンツについて、効果があるか不明である。
- ・ 複数企業による事業実施体制に不安が残る。
- ・ 費用対効果が必ずしも高くない。
- ・ 事業プロセスで使用する文書フォーマット等の定義が明確である。
- ・ 過去の大規模事業についての実績があり、事業運用への安心感がある。
- ・ 商店街の実態をよく理解して、現実に応じた計画を策定していると理解している。
- ・ 手続き関係は詳細な企画だが、専門性が認められる記載がなく、特段の工夫が見られない。

(Lグループに関する所見)

- ・ 事業実施体制について、十分に機能するかどうか疑問が残る。
- ・ 全国にまたがる膨大な事務作業をこなせるかどうか、不安である。
- ・ 事務負担軽減に向けた工夫がある。
- ・ 費用対効果が必ずしも高くない。
- ・ 事業内容の運用設計が具体的である。
- ・ まとまった企画提案書であるが、平均的である。
- ・ 全体的に商店街等のにぎわい回復を意図する企画となっていると考えられる。
- ・ 全国的な事業の実績がないと思われ、本事業をやり切れるか不安がある。
- ・ 人件費が高い点が気になる。

(Mグループに関する所見)

- ・ 提案内容に工夫が見られる。
- ・ 全体的に綺麗にまとめられているが、具体性に乏しい。
- ・ ユニークな提案内容がある。
- ・ 外注先との役割分担、責任体制が明確である。
- ・ 事務負担軽減に向けた工夫がみられる。
- ・ 費用対効果が高いと認められる。

- ・ 事業の運用イメージは明瞭であるが、具体的な運用設計についての提示が不足している。
- ・ 可能な限り自社スタッフで実施することにより事業費を削減する工夫が見られる点、商店街に関する知識・経験を有している点において、高評価である。
- ・ 商店街の課題や方向性を明確に理解していると考えられる。
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止を意識した企画となっていると思われる。
- ・ 経費内訳は大雑把であり、特に人件費はやや高いと感じる。

(Nグループに関する所見)

- ・ 商店街の選定方法について、極めて困難が予想される場所、どう選定するかがポイントとなる。
- ・ 広報分野の専門性は高く、実績も評価できる。
- ・ 商店街支援およびその実態を把握しているか、疑問が残る。
- ・ 商店街関係団体との連携について記載があるが、内容が不明である。
- ・ 事務負担軽減に向けた工夫、再委託、再々委託を避けることによる費用逡減の工夫がみられ、費用対効果が高いと認められる。
- ・ 提案内容に具体性がある。
- ・ 類似事業の実績がある。また、本事業の推進に資する関連事業の経験を有している。
- ・ 全国的な事業運営基盤を有している。
- ・ 提案内容がよく練られている。
- ・ 商店街の課題や方向性を明確に理解していると考えられる。
- ・ 経費を抑える努力が窺える。また、経費内訳は緻密で、人件費も低い。

2. 総評

需要喚起キャンペーン事業（Go To 商店街事業）の事務局募集について、7月1日に企画提案書の募集を開始し、7月21日に締め切ったところ、14者からの申請があった。

各審査委員がその14申請者全ての企画提案書について採点した結果、総点46.2点でNグループが最も高い評価となった。

Nグループによる企画提案書について改めて確認し、審査委員より以下の所見があった。

(Nグループに関する所見)

- ・ 管理手法の具体性、過去の経験値からプロジェクトマネジメントの手堅さが評価できる。
- ・ メディア利用による広報が非常に期待できる。
- ・ 費用対効果、経費の適切性が認められる。
- ・ 関係団体との連携方法、商店街支援業務の実績について、一部不安が残る点もある。中小企業庁と連携しながら適切に進めてほしい。
- ・ 提案内容がよく練られており、全体的にバランスのとれた提案である。

これらの所見に加え、5名の審査委員のうち3名が全申請者の中で最も高い評価をしていること、審査項目のうち最も重点を置いた費用対効果に関して全申請者の中で最も高い評価となったことより、Nグループを採択候補者として決定することとした。

3. 公表資料案の確認

第三者審査委員会の概要等を取りまとめた公表資料（審査結果報告書、審査概要）の案について、確認を行った。公表資料案に関して審査委員から意見はなかった。

4. 第4回第三者審査委員会について

第3回第三者審査委員会の概要を含めた審査概要等の公表資料のとりまとめを行い、その資料等について次回第4回第三者審査委員会において確認し、採択事業者の最終決定を行うことを決定した。

日程、詳細な実施方法について、中小企業庁より後日連絡することとした。

以上

第4回 第三者審査委員会 議事概要

日 時：令和2年8月31日（月）～令和2年9月2日（水）

場 所：各審査委員による

審査方法：書面会議による審査

議事内容：

1. 第4回第三者審査委員会の進め方について

当初の予定では、第4回第三者審査委員会において採択事業者の決定を行う予定であったが、8月24日に実施された第7回新型コロナウイルス感染症対策分科会にて、現時点ではイベントの開催制限を緩和する状況にはないと判断されたことから、Go To 商店街事業における感染症拡大防止の観点から改めて確認し、審査を進めることとした。

2. 申請者の感染症対策に関する提案内容の確認

採点結果において上位であった申請者の感染症対策に関する提案内容について確認を行い、意見を聴取した。

主な意見は次のとおり。

（全般に関する所見）

- ・ いずれも感染症対策を講じることを表明しており、それぞれに特徴はあるものの、感染症対策に取り組む姿勢は明らかである。

（Nグループに関する所見）

- ・ 感染症専門家を事務局メンバーに加えることによって、イベント実施内容について助言・監修が可能である点及び臨機応変な状況変化への対応が可能である点が評価できる。
- ・ 消費者向けポスターの作成等、感染防止策の周知徹底を図ることとしている点が評価できる。
- ・ 感染症対策を商店街応募要件・審査項目に明記している点が評価できる。

なお、申請者の感染症対策に関する提案内容について、審査委員による追加ヒアリングの希望はなかった。

3. Go To 商店街事業における感染症対策の確認

Go To 商店街事業における感染症対策について、中小企業庁から対策案の提示があったため、意見を聴取した。

主な意見は次のとおり。

- ・ 新型コロナウイルス感染症の動向は刻々と変化している。採択事業者が予定していた感染症対策を講じるだけでなく、新たな状況の変化に対応して、中小企業庁と協議しつつ、常に必要な対策を講じること。
- ・ 感染症対策は、対策の深度をどの程度に設定するかによって、対策の有効性と業務の効率性が相反するケースも想定される。
- ・ 対策のレベル感についてどのようにして決めていくのか。とても難しい問題であるが、適切に運営しようとしている商店街のイベント等の実施に支障が出るような詳細なものとならないことを期待する。
- ・ 事務局内部での感染症発症等により、当該事業が中断・遅延することは大きなリスクであるため、事務局における感染症対策も重要である。
- ・ 商店街等において、参加者に新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）のダウンロードを要請してはどうか。
- ・ いずれの申請者も、商店街イベント等の開催条件を遵守する旨の誓約書の提出や感染症対策実施に関するランダムチェックに関して言及がなかったため、事業実施にあたっては、その点の改善があると望ましい。

4. 今後のスケジュールについて

第4回第三者審査委員会の概要を含めた審査概要等の公表資料のとりまとめを行い、その資料について次回第5回第三者審査委員会において確認し、採択事業者の最終決定を行うこととした。

以上

第5回 第三者審査委員会 議事概要

日 時：令和2年9月3日（木）～令和2年9月7日（月）

場 所：各審査委員による

審査方法：書面会議による審査

議事内容：

1. 公表資料案の確認

第三者審査委員会の概要等を取りまとめた公表資料（審査結果報告書、審査概要）の案について、最終確認を行った。公表資料案に関する審査委員から意見を公表資料に反映することとした。

2. 採択事業者の決定

第3回第三者審査委員会において採択候補者として決定したNグループについて、採択事業者として決定することの決議を採った。審査委員全員の異議がなかったため、Nグループを採択事業者として決定した。

以上